

# LEONTODO

N-ro 32



1965 April

HOKKAIDO ESPERANTO LIGO

*Hošida*

La 2a Disciplinado de Esp-istoj  
en Hokkaido en 1965  
Bonvenigante S-ro G.G. Pompilio el UEA

とき 3月6~7日

ところ サツボロ (道共済会館、宮位エス、22号)

5日.

世界エスペラント協会 (UEA, オランダにおく) 大会席任書記 S-ro  
G.G. Pompilio (italo) は本年夏の東京における第50回世界エ  
スペラント大会の宴をかねて本道の同志を激励するため5日朝サツボ  
ロ駅におりたつた。出迎えた高橋達治 HEL 事務局長をはじめ札幌エ  
ス会の数人の会員とともにその足で道庁の知事室で記者会見。6日付  
の道新に pompilio 氏の来道が写真入りで報道された。そして5日  
の晩はオタルの Kunsidojo かめや旅館へ。かめやでは18名出席  
同視 二の旅館で宿地。(6日付朝日新聞全道版報道)

6日(土)

開会は15時から予定が、おくれてくることが多い之に司会者に  
予定していた高橋達治氏の突然の欠席の通知で予定がくるい15時45分  
から始まつた。そのために70分の一節変更と余儀なくされた。

北海道エスペラント協会 (HEL) 副会長でかつ札幌エス会 (SES) 会長の吉  
原氏の開会挨拶ののち質問形式による Interkonatiqo が1時間おた

17時 S-ro Pompilio とその通訳として JEI から派遣され  
た S-ro Sooji の登場。拍手で迎える。HEL, SES および出席  
者一同にかわつて吉原氏が歓迎のあいさつ。S-ro Pompilio  
からはそれに対する感謝のことばがあり、また「用語は Esp のみ…」  
との会場のはり紙をみつけて「エスペラント運動にとって大切なのは  
実践である。日本語を使わないとの方針にさめた勇氣は高くかわれて  
よい」と一言ほめこは。約15分間のかれの語ののち自由を壇内が

なされた。

緊急撮影後、全員夕食を別室でとり、そののちは S-ro Pompilio から世界大会に関係のない話を 30分ほどしてもらった。前回の disciplina と同様、今回も一切日本語を使わない予定であったが通訳の S-ro S88ji がみごとにその任務をこなすのでかれには S-ro P の話ばかりでなくその他の人々の話まで初音者のために通訳してもらうことになり、かれにのみ日本語の使用が許された。

会典の時間には SES 会員 S-ro 川口の独唱があり、また SES 約 10名 によってイス語のヤーラン節(永田訳)が踊られた(fino Mine 踊り指導)。そのあとで S-ro P から生れ故郷イタリヤの名曲サンタルチヤが原語とイス語で披露された。また SES 会員の qe-komencantoj (1964 8月の講習修了者)の S-ro 藤井, fino 高坂 岸口 S-ro 須田によって1枚の練習になるという自作自演(?)のかとくち話で披露された。

20時 La Taq:ro をうけて共済会館での会合を解散。

岩ヶ丘ユースホステルの合宿では S-ro 木村を中心に1時間の勉強会がもたれた。宿舎に指定したこのユースホステルの使用者のほとんどから居心地がついて不平がでたので、今後はここを敬遠することにする。泊られた方々には当方の宿舎選定ゆえの不行届によりご迷惑をかけたことを二で深くお詫言ひします。

7日(日)

S-ro P が 50回 世界エスペラント大会に向ける講演と聞くことにこの日の主たる目的がすかされた。約1時間半にわたるかれの講演にあり、多くの出席者がイス語で話す勇気をもち、エスペラントの意義を再認識したという点でこの日の効果は大きい。(講演内容別掲) 又通訳の S-ro Sooji (早大4年生)からはエスペラントで過去2回の

世界エスペラント大会に参加したときの経験を3つほど小語ふうにおもしろおかしく語をしてくれたので一回笑いの連続といふかにもまあつた。

この日の模様はNHKテレビが午前10時ちぎ取材、同日12時10分  
からテレビニュースで放送されるということでDisciplinadoが予定どおり12時ぐ終わったあとは出席者一同STOPと共済会館のsalonでテレビをみた。「エスペラント……」のtitoloを画面にみよや、みな思わず歓声をあげた。12時半、外で記念撮影して散会。

出席者 45名 (6日 39名 7日 4名) 今回身食も忘れて準備に当って下さった方々に感謝します。次回のDisciplinadoにはより多くの方が出席されるよう希望します。

(HEL. サホヤ委員 児玉、永田)

## ★50回 世界エスペラント大会について — S-ro G.G. Pompilio の講演要旨 —

### 1. 各種の国際会議と世界エス大会との相違点

- | 各種 国際会議                                | 世界エス大会  |
|--|---|
| イ. それぞれの国を代表した者の集りて国際的 (inter-nacia)   | イ. 人類の一員として集まり、世界的 (universal)  |
| ロ. どの国際会議も一つの kategoria に属する temoj を討議 | ロ. 幾干もの職業、幾干の商心を以てた幾干の人口が集るのだから programo 多彩。Esp 以外のことを Esp で討議する<br>分科会は各分野にわたる |

ハ、赤字になる。政府とか大きな機関から莫大な援助をうけてい  
るのに通訳や通訳装置(inter-  
preta aparato)に高い経費  
がかかる

ニ、公用語が少くとも3ヶ国語  
ある。口語のUNESKOでは公式  
8つ、非公式7つの計15ヶ国  
語が使用され、その煩雑は極  
限に達している

ホ、会議が一旦休憩に入ると通  
訳装置は働かず通訳は尻りな  
上にたいいの場合私用に使  
えないので、「きこいよとは」の  
通じろ者同志、すなわちそれ  
ぞれお国別にくだまつてしる。

ハ、公用語を強せたいあるいは  
少ししか認めない人は、いいた  
いことをうまく表現できず不  
利である。反対に公用語に採  
用された国語を話す人々は優越  
感すら感じ不幸にして公用  
語にならなかつたために余儀  
なく他国語をまわらぬとてヨ  
チヨチシマへる小国の人たちと  
一般に、見おろす傾向がある。

ハ、赤字になることがない。昔用の  
かかる通訳とか通訳装置がいっぱ  
いからである

ニ、公用語はEsp 一つである。

ホ、休憩時間でも ことばに不自由  
がないので salonoや廊下や屋  
外の至るところで各地から集ま  
る者の親善風景がくりひろげられる。

ハ、いかなる国の人にも平等なE  
sperantoが唯一の公用語で  
ある結果 人々には人類としての共  
同意識をもつ。

## 2. 第50回世界エス大会

7月31日 — 8月6日 (東京) 世界エス大会

8月8日 — 8月15日 (大津市) 世界エス青年大会

親睦会 — bela salono で

分科会 — どこに顔を出してもよい。Esp 以外のことを Esp のみで討議。

総会 — Esp で Esperanto B の Esp-Movado について討議

夏期大学 — 各国からの教授、専門家がシララとくもわかるように話す。夏期大学の目的は知識を授けろろということよりも学術的なことでは Esp で充分表現できることを証明することにある。

演劇 — ガメンホフの生地がオランダの政府が一切の費用をいってプロの劇団を東京に派遣してくる。アメリカの現代作家のものを上演する予定である。第48回世界大会 (オブルガリヤ) ではほかの方法では他に知られぬようなユーゴのマトウツヴァイツ (ユフ) という劇作家を 45ヶ国からの 3500人以上の考査者に紹介した。劇上演の目的は微妙な心の nuanco をよく表現できることを証明することにある。

註. 今夏東京での世界大会には去年 12月31日現在で考査申込は外口から 500人、日本から 1700人に達した。エスペラントを始めたばかりの方では東洋で最初しか日本では最後ともおられる来る世界大会へは万障を繰り合せて参加されることを希望します。申込方法や申込書については直接日本エスペラント学会 (東京都文京区元町 1-13) へ返信用切手 10円と同封のうえ、お向合せ下さい。申込のメ切り日は 6月30日です。

## 現在の Homaranismo

星田 彦 (苦小牧)

S-ro Pompilio 歓迎会で homaranismo の現状をさかされ方がありましたが、充分な答ではなかったようです。現在 Realigita homaranismo — Unitarismo と称する団体が 北アメリカにあります。これは '63 の UEA-Jarlibro によれば

--- estas religio, sed religio en pli larĝa senco ol difinita en la Plena Vortaro, ..... Ne tio, kion ni kredas, unuigas nin, sed kiel ni servas la veron. とあります。Unitarismo は英語で Larger Fellowship Unitarian Universalist といい 北米に千の教会、20万の信者 (unitaranoj) をもっているようです。UEA の Fak-deligito には kanado の s-ro R. Eichholz が出ています。知りたことがあれば 御一報下さい。

### ☆ 道内 Samideanoj 訪ねる記 ☆

札幌 木村 喜王治

私は昨年9月から1月まで5ヶ月間に仕事の関係で道内を一巡する機会をもつたので 行く先々で Esp-Vespero を持つことに努めた。というのは私も今55才、何とか今のうちにたさんの後継者を養成しなくては、柄にもない望みを持つたからです。紋別へ行く途中遠軽で Vagon-Sanĝo するので、堀江精一さんに駅まで出迎えて頂きました。実は堀江さんには一度もお目にかかったことはないし、さぞかし junulo であろうと想像していたところ Blanka-haro の instruisto であつたのには驚いたの、喜んだの。pli malnova

parolado を聴いて Ĝis la kongreso しました。

こんな調子で 北見、釧路、根室、稚内、旭川、帯広、夕張、岩見沢、江差 の各地で エスペラント の夕を持つことができ、また苫小牧 函館、室蘭では常連に会い楽しく trabilado に時を過ごしました。

帯広の夏才先生は音受保健所の所長さんで malsanulo の taĝlibro を Esp で書いておられる方でした。また帯広 蕨生の fimo 斎藤、岩見沢の中学生の田中さん(でしたか)、ほか相当に parolado できる若い方が各地におりますので楽しみです。北見と帯広の皆さんへ alilandanoj の paroladoj の son-bendo を送っておきましたので、こんな外人の話を解り易いかと、自信をつけたことと思います。函館の小田島さんには昭和17年の才一回北海道大会(空知郡 山部で開催)の写真でお目にかかつて以来のことですし、疎の再会という思いでした。函館ではもうエス会が再設立され頃だと思います。

旭川ほか各地の皆さんも会を設立してください。旗印を掲げてください。旗印をあげることは自らを励ますことです。まず自分の kapablo を引上げなくては他の才にすめられません。たぐいの少い聖なる仕事をすることにより誇りを感じましょう。学会(日本エスペラント学会)会員だけでも現在道内に100名以上おられますし、今年の北海道大会はかつてない盛大な集いになることと今から楽しみです。何だか血の高鳴りを感じます。

Agordu la brustojn, ho, nia fratar' と。

北海道大会で会いましょう！

北海道大会で会いましょう！！





# Leteroj el izolitaj gesamideanoj

苗小牧 星田 淳

昨年大会の新聞報道以来 各地に学習希望者があえだが 殆どが izolita stato で恵まれない条件の下に 独習をフツけている。 kuraĝon kaj helpon, gesamideanoj! 以下 leteroj を少し紹介する。

私は、<sup>私</sup>独習といつても全然なんです。38年4月からといつても 簡單な会話をおぼえた程度です。でも混乱きわまる世界の状況と思えば エス語こそ神の言葉だと思います。そして私達青年がこぞって学ばべき言葉ではないでしょうか。一つの神、一つの言葉、一つの世界を実現しなければ 平和な世界は生れないと思います。

(上川郡下川町の橋二十線、木村田チエ子)

私が語学には全くといってよい位不得意なのに なせ決心があるか、オーに戦争の大部分は 便宜的な実を除けば お互の国の理解が不完全充分だったからであり、それは風俗習慣の違いの勿論ですが それより言葉の通じないのが大きな原因だと思つてゐます。私自身有意義な人生をしたいと思います。……国内のエスペランチストや全世界の人たちと暖い友情を交わしながら お互をよく知り 本当に日本人として恥づかしくない視野の広い人間になりたいと思つております。

(千代市 緑町1丁目 北村方、開発文夫)

……主人はロイヤ語を学んでおります(独学)ので 私も主人に負けぬよう頑張ろうと思ひ斗志を燃しているのですが…… 平和を語

り合える仲間を一人でも多く小やして行こうと考えています……  
「世界平和」という大きな課題に一步一步近づこうと、未熟な心にむち  
打つて……万年初級で終らぬよう頑張りたいたあーと思います。

(阿寒郡 鶴居村 支雪裡 佐藤 ツル)

---

## Fest-parolado de Dro Prof. Ivo Lapenna

---

苫小牧 星田 淳

先日 小樽の S-ro Pompilio 歓迎会、札幌での Disciplinado  
で皆さんのお耳に入れた Dro Ivo Lapenna の 49 回大会 (昨年、ハグ  
) での演説の内聞かせどころを紹介しします。彼は現 UEA 会長、現  
Esp-uj の 最高の Oratoro といわれ “Retoriko” の著者  
でもあります。

この演説はドーナツ盤位のプラスチックシート、2枚、4面ですが、  
前半はおさまりのあいさつ 南緯地 Nederlando への Laŭdado  
が多く、esp-istoj への部分は後半です。UEA の “esperanto”  
sept 1964 にこの演説は 2 頁にわたつてのつていますが、これは  
は全く koncizigita teksto で 構文も用語も ホンモノとかなり  
ちがっています。全ロオミットされた所もかなりあります。

初めてきくと かなり早くてききとりにくい所もありますが 発音  
は案にはつきりしているので 何度かきけば、やがて全部聞きとれるよ  
うになるし そうなれば 今度の UK の演説をきいてお そう若勞しな  
いでしよう。しかしさちがの Lapenna <sup>の</sup>でも、生の演説ですから、  
所々つまりかかつたり、言いまちがえらしい所も <sup>た</sup>あります。次に引用  
した部分では カッコ内に入れたのが (12 頁へ 続く)

Kiam la sekretario de Unuiĝintaj Nacioj turnis  
sin al neregistraj organizaĵoj en konsultaj  
rilatoj kun Unuiĝintaj Nacioj kaj kun Unesko, (int-  
-er aliaj ankaŭ unu le?) por partopreni en tiu ĉi  
agado, kompreneble Universala Esperanto Asocio ak-  
ceptis la kunlaboron; ĉar ni esperantistoj oni-  
nis, kaj ni esperas ke mi esprimas la opinion de  
ĉiuj ĉi tie kiam mi tion diras, ni esperantistoj  
oponias ke necesas doni dubtenon al ĉiuj honesta  
- j lojalaj klopodoj de Unuiĝintaj Nacioj,  
kiuj celas antaŭenigi internacian komprenigon  
kaj sekve ankaŭ mondan paco, ĉar ni esperantistoj  
ja estas por la monda paco, kaj ni estas ne nur  
hodiaŭ, sed estis ankaŭ hieraŭ kiam estis fortaj  
internaciaj tensioj, kaj ni estis ne nur hieraŭ  
, sed ankaŭ antaŭhierau, eĉ de la momento, kiam  
tiu ĝena junulo el Bialistok ekhavis la ideon  
doni al la homaro komunan lingvon; ĉar tra ĉiuj  
niaj realigoj ĝis la hodiaŭa tago la ideo de  
komuna supernacia neŭtrala lingvo estis ligita  
al la penso pri interkomprenigo ne nur buŝa sed  
ankaŭ kora, al la ideo de toleremo kaj komprenema  
rilato al alies pensoj, ideoj, ideologioj kaj  
religiaj sentoj, al interkomprenigo inter la  
rasoj kaj nacioj, sekve al la monda paco. (aplaŭdo)

( I I )

Necesos kolekti multajn subskribojn je tiu propono. Necesos mobilizi Ĝiujn niajn organizaĵojn kaj Ĝiujn unuopulojn, ĉar kvankam dum tiu Ĝi jaro de internacia kunlaborado ni faros nian eblon por ĉerpi el la klopodoj de Unuigintaj Nacioj sur tiu kampo, tamen ni ne forgesas, ke ne estas <sup>ebla</sup> pli intensa kaj pli vasta internacia kunlaborado, sen akcepto de komuna instruado de kunlaborado, per kiu povas interkomprenigi ne nur la intelektaj elitoj, kiuj havis tempon por ellerni multajn fremdajn lingvojn, kaj eĉ tiu lerno ne sufiĉas al ili por interkomprenigi Ĝiam, sed ke necesas kunlaborado de la vastaj popoltavoloj, kiuj havas nek tempon nek energion en la hodiaŭa moderna tempo por lerni amasen da lingvoj, sed necesas havi unusolan lingvon por internacia komprenigo, kaj tio estas nia internacia lingvo Esperanto, internacia laŭ sia konsisto, laŭ siaj celoj, laŭ sia strukturo kaj laŭ ĝio. (aplaŭdo)

( III )

Tiamaniere, al kiu ajn aspekto vi rigardas,

もとのコトバです。(訂正は黒印)

## I

ここは今年の「世界協力年」のために国連から協力要請があった時 協力することとした UEA の考えをのべてとります。

ESP 文 (I) (10頁) をよんで下さい。

この長いのが一つの文らしいので大変ですが 大意を示しておきます。

(大意) 国連が諮問の諸団体にこの運動(国際協力年のための運動)の協力をよびかけた時 UEA は勿論協力することとした。そのわけは、国際理解をおい進め 従つて世界平和をめざす国連の努力は支持すべきだと平和のために働く我々 esp-isto は考えるからである。我々 esp-istoj は現在においても過去においても、Bialistok の天才青年(勿論 Zamenhof) の頭に国際語の考えが宿つたその時から、平和のために働いてきた。そして又現在迄の中立国際語の事業は常に コトバ だけでなく 心と心との理解、他人の考え、理想理念、宗教への寛容の精神、民族 国家間の理解、従つて世界の平和……に結びついていたからである。

## ( II

ここは全世界で行われている国連への署名運動について許へ、esp-isto としての考え方をのべています。

ESP 文 (II) (11頁) をよんで下さい。

(大意) 多くの署名を集めるため、我々の組織、個人の全力と結集しよう。この国際協力年に当り 国連への協力に全力をつくすというだけでなく、次のことを常に頭においているからである。即ち現在以上の高度な国際協力は、多くの外国語を学ばない一部のエリートだけではなく、そんな暇のない広大な大衆の参加なくしては、従つてその参加を可能にする共通の国際語の採用なくしては不可能なこと。そしてそれは その構成その他あらゆる理由により国際的な我々の 에스ぺラント であるということである。

### III

こは最近の Esp-Movado の前進を数字をあげて示したあと、この進歩を esp-istaro の Unueco がなければ、全事業に重大な危険を及ぼすとザメンホフの最後のいしめ（1912年 Kraków の 23-a WK）を引用しこの精神を分つての前進をよびかけています。

11頁

Esp 文 (III) をよんで下さい。(14, 15頁)

(大要) こうして内外の色々の向題はあるが、我々は前進してきた。□際抜か早にあつての我々の任務をなすにけることは、我々が統一をこゝ守つてさえいれば——組織的にも精神的にも統一していれば、可能である。この際 1912 年ザメンホフが Esp 界の公的地位から退くことをきめたときの言葉を思い起していただくのが一番よいと思う。

「Esp 界のすべての公的地位を退くに当り最後にお願ひしたい。常に完全な統一、秩序と調和をもつて進むようにと。統一さえあれば、全世界が敵に廻らうともいつかは勝利をうるだろう。内部に不和があれば、敵が皆で力をあわせて攻めてくるより早く我々の事業はつぶれてしまうだろう。我々の間によくないと思ふ事があつたら、合意の決定によりそれをおだやかに除去しよう。決して我々の間に憎しみや不和の種をまいてはならない。それは我々の敵を喜ばすだけだから。我々の運動の初期、「希望、信念、忍耐」が我々の標語だった。その時は同志がお互に尊敬し助け合うのは当然と考えられていたからそれでよかつたが、(一とザメンホフはいつてゐるのだが) この当然のことが、残念ながら最近よく忘れられるようになった。それで我々は新しい標語を旗にかきこみ聖なる命令としてこれを尊敬しよう。——その言葉は「調和」である」

(以下 16 頁につづく)

vi vidas objektivan progreson malgraŭ la grandaj malfacilaĵoj eksteraj kaj malgraŭ multaj obstakloj internaj, kiujn ni frontis kaj plue frontas en nia laboro. Mi do opinias, ke ni estas kapablaj plenumi la grandan taskon kiu staras antaŭ ni en la jaro de internacia kunlaborado sub unu kondiĉo, ke ni estu unuecaj, unuecaj ne nur organize, sed ankaŭ en niaj koroj kaj spirito. Kaj tiurilate ni opinias ke ni povas fari nenion pli bonan en tiu ĉi momento ol memorigi vin pri la vortoj, kiujn eldiris D-ro Zamenhof kiam --lasta pro kelkaj eventoj en la tiama esperanto-movado, li decidigis retifiĝi el ĉiu oficiala funkcio al la esperanto-movado kaj en sia fama parolado de la jaro 1912, anoncis sian eksigon. Li diris ;

"Antaŭ ol mi formetas de mi ĉian oficialan rolon en nia sfero, mi ankoraŭ la lastan fojon edmonas vin ; laboru ĉiam en plena unueco, en ordo kaj konkordo. Per unueco ni pli ŝu malpli frue certe venkos, eĉ se la tuta mondo batalas kontraŭ ni ; per interna malpaco ni ruinigus ni nian sferon pli rapide, ol tion povus fari ĉiuj niaj malamikoj kune. Se en nia sfero speros os io, kio ŝajnas al ni malbona, ni povas trunkvile ĝin forigi per komune konsentita decido ;

sed ni neniam semu en nia tendaro reciprokek malamon kaj malpacon, kiu nur ĉojigas kaj triumfigas niajn malamikojn. En la unuaj jaroj de nia laborado sur nia standardo estis skribitaj la vortoj 'espero, obstino pacienteco' tio tute sufiĉis, ĉar ke ni, sameanoj, devas reciproke nia estimi kaj helpi, tio por ĉiu estis komprenebla per si mem. En la lastaj jaroj -diris Zamenhof- bedaŭrinde ofte forĝesis tiua devon; tial nun, transirante en la ~~duan grandan~~ <sup>duan kvaronjaron</sup> ~~periodon de nia historio~~, en la ĉi tiun vorton ni ĉiam respektu kiel sanktan ordonon, tiu vorto estas 'konkordo'.

Tio estas la vortoj de D-ro Zamenhof. Tiuj profetaj pensoj de Zamenhof regu la laboron de tiu ĉi kongreso. Ili estu antaŭ niaj okuloj kiam ni ekas kaj laboros en la Jaro de Internacia Kunlaborado. Ili estu la bazo de nia agado en la estonteco.

*Se ni observos tiun saĝan kaj prudentan konsilon, ni certe venkos.*  
Se ni observos ĝin, ni riskas ne nur detrui ĉion kio ĉi-miloj de sindojnaj personoj kreis dum pli ol 70-jaroj ekzistado de Esperanto, sed ankaŭ kompromiti por ĉiam la ideon de internacia lingvo, ĉar se ni kompromitas hodiaŭ la ideon de la internacia lingvo neniu plu troviĝos, kiu povos restarigi ĝian reputacion. (aplaŭdo)

Ni estas sufiĉe fortaj, geamikoj, por iri antaŭen. Ni nur bezonas saĝon kaj prudenton por esti unuecaj. Kun tiu saĝo kaj prudento ni alfrontu la laborojn de tiu ĉi kongreso, ni alfrontu la Jaron de Internacia Kunlaborado, por ke la Jaro de Internacia kunlaborado farigu samtempe ankaŭ la jaro de la Internacia Lingvo Esperanto, en la intereso de internacia kunlaborado, en la intereso de amikaj rilatoj inter la popoloj, rasoj kaj nacioj, en la intereso de amika kunlaborado inter ĉiuj unuopaj homoj, en la intereso de ni ĉiuj. (aplaŭdo)



・ このザメンホフの思想こそ 我々の大会を貫き 常に我々が旨とすべきものだ。それは我々の未来の活動の基礎である。我々がこれを守る限り心ならず勝利するだろう。もし守らなければ 70年のESP運動の成果のみならず 国際語の思想そのものを危うくしてしまうだろう。

我々は前途の力を充分もつている。このザメンホフの教を旨として 国際協力の年にのぞもう、国際協力の年が 国際語エスペラントの年になるように、それは国際協力のため 諸国民の友好、すべての個人個人の協力のためであり、我々すべてのためなのだ。

### ポソピリオ氏のよこ顔

面長の橋幸夫刈リ。イタリヤ生れ。15.6オのとき Esp を学ばはじめ 22オ でオランダにある世界エスペラント協会本部に勤務。以来 28オの今日まで 6年オランダで Esp のために働き 現在大会常任書記。毎年世界大会開催地におもむいてその準備に当たっている。長いアゴに秘めたる国境のない人類共同社会への情熱はもえてつきることを知らぬ。

(札幌-ano)

# 新名媛発行について

HEL事務局

一昨年苫小牧の f-ino 北畠らの努力で名媛が発行されましたが各地 Grupo の membroj もかなりかわつていようです。又一面では Izolitaj membroj の数もふえていようです。

S-roj 木村、聖田の調査で JEI の membroj が意外に多く私達もこれら gesamideanoj が一緒に HEL に集まつてもらいたいと思います。次に若干の名媛を記します

## 函館 GRUPO 予想の人.

吉田栄 函館市船見町43

中尾光成 " 大森町28万和荘

市川忠 田家町51

榮輝子 蓬萊町8

真鍋豊定 港町253北岩瀬

国兼信一 柏木町103

小田島栄 上磯町七重浜391

阿部誠 " 民田地

佐藤元 江差町江差高校内

石黒順子

函館市若松町88

川本昭彦

" 田家町38

山本浩司

" 五稜郭町49  
山口町

金平英子

上磯郡木古内町本所

## 北見 GRUPO 予想

山下 宏美 北見市三楽所102

津村初雄 " 公園町

神野信遠 " 北見専門会会館前所

竹長 敷 " "

## 釧路、帯広 GRUPO 予想

(釧路市北大通 102 太平洋ビル4F 事務所)  
竹西署二)

沼田 芳藏 釧路市新学町11-11

高尾 清 " 私書函39号医務室

伊藤 三枝子 帯広市 西7南25  
 楠井 雅子 " 西6南4  
 有藤 留美子 " 西5南15-8 (帯広大学)  
 池田 章夫 " 西10南19 山田英香方( )  
 佐藤 YU 阿寒郡鶴居村支雪裡

岩見沢 GRUPO 予想

長峯 蓮雄 岩見沢市春日町 3-1 学大往宅  
 浜田 国典 " 緑ヶ丘学大希望寮9室  
 田中 尚 " 上幌向町 12号  
 鷹取 寛資 " 北出町 1-1  
 三浦 清 " 春日町 / あやめ荘  
 竹内 浩廣 " 14条西4  
 新田 厚男 中仁町 三川  
 藤田 一郎 栗山町 一區  
 太田 俊彦 栗山町 5區454 太田全作方

旭川 GRUPO 予想

大沢 淳一 旭川市春光町 1區5条  
 竹吉 正広 " 9条9丁目 右1号  
 水島 辰重 " 神居町 神居古澤 水島三子方  
 池田 迪子 " 旭町 5丁目

千才 GRUPO 予想

中里 和夫 千才市春日町 1-1  
 南条 文夫 千才市緑町 一丁目 北井方

札幌参加予想

飛塚 基 札幌市 南8西3 飛塚ハマ方  
 越智 世津子 " 北8西24 横田正己方  
 湯浅 幸雄 " 中ノ島2条1丁目 才3泊水素

高瀬  
 正栄  
 東京市世田谷区若林町 25

marks  
 65

小樽参加予想

板垣成子 余市町大川町 12-21  
 菅野忠一郎 " 沢町 / 小川有司方  
 日誌京子 小樽市 天神町 83  
 松浦光子 " 真栄町 2  
 渡辺陽子 " 若竹町 19  
 漆野 峰 " 富岡町 103  
 今江弘子 " 福木町 西 502  
 後藤 洋子 " 砂留町 82  
 塩田 康子 " 花口町 床 4021  
 佐々木 郁子 " 奥沢町 4042  
 安部 俊光 " 才1管区海上保安本部

道北 (20:1:Ca)

有藤 圭司 厚田町 別狩 8  
 浜川 春雄 天塩郡 豊富村 日替天塩磁業所 北心亭  
 奥泉 高一 斜里郡 斜里町 又光町 6  
 堀江 精一 遠軽町 大通 北一丁目  
 真乃 善三 河東郡 音更町 8丁目  
 杉本 正徳 芦別市 本町 270  
 吉田 邦彦 歌志内市 本町 167  
 吉田 義美 美唄市 東1南1  
 伊東 英幸 " 我路町 3条  
 錦田 むつ子 各務原市 東千条北1丁目  
 榎田 テエ子 上川郡 下川町 二の橋  
 近藤 晴直 和寒町 西和7  
 三田 智久 士別市 西1-10  
 桜井 七郎 稚内市 恵比須通 1-301

(道外)

植下口勝 岡谷明男

千葉果木更洋局  
 私書箱 六号  
 愛知県小牧市南外山  
 室自五術校才教習部  
 科



|       |                 |         |
|-------|-----------------|---------|
| 系永 顕二 | 轄西町元町アパート141～は  | (富士製鉄)  |
| 高橋 秀一 | 津南市小橋内町28       | (口設室南駅) |
| 灘本 博子 | 新前水町日鋼社三今5号     | (室南産鋼所) |
| 奥山 忠雄 | 東町日鋼社支三今4号      | (日本製鋼所) |
| 平田 岩雄 | 車町日鋼社東雲298号     | ( " )   |
| 田中 月代 | 懐別邸登別町字登別 134-5 | (月成建設)  |

## ウ夫人との旅日記から

(小樽 早川 昇



ウ夫人の早くからの御依頼で、私のような会話下手な者ではと思つたが、'62年9月1日から24日までの間、私はウ夫人の山部行、それに続く看雲峽、阿寒、襟裳岬三国立公園への御旅行にKondukantōとして随行した。ここに其の行程と旅情を軽くskiziさせていた

私達が山部へ向け小樽を立つたのは18日の朝10時50分だった。山部駅に着いたのは、その日の午後4時5分。そこには大本北海本苑の事務長、今野栄志氏を初めとするお暖かいお親が四つ五つ見え、私達は直ぐと程近い同苑の快い静けさの領しての和室へみちがかれた。

二でのその夜は楽しかった。私達への歓迎会をなさつて下さるとの事で、同苑関係のお方では今野氏の升、宣任便たる三股崎、柴田の両氏や、大本青年会長の横山氏、同会員の平間氏、また、同苑の佳餐の調理者として特に感謝せねばならない山部青年会の小林嬢等がお集り下さり、また外部からは、山部村村長、日野政史氏や、村藤、社会教育委員で諸外語に御堪能な赤広義治氏等がお加わり下さった。

ウ夫人は一同に、エス語の有明性が如何に universal であるかと  
いうこと、英国現代の靈媒術に因して、ほかほか面白い説明や見解を  
述べられたので、われわれ共に、眼を輝かした。この会は事實上、その後  
相もなく同地に誕生したエスペラント研究会の創立準備会にも成つた  
らしく、私は想っている。

山部のお方様方の御厚情の程を懐く時、私一個としても深くお礼申し  
上げねばならないが、何とぞして其のエス語への注目が一層深まって  
行くよう祈り上げずには居られない。

私達は翌朝は旭川市の旧近文アイヌ部落を訪ねようと、10時42  
分発の列車に投じた。途中、私の言葉を誘わした旭川市観光局長、  
赤坂重雄氏の御好意で、私達の同所訪問には市役所観光課の御配慮を仰  
ぐ方が明御台だと解り、私達は同市に着くと直ぐ同課を訪ねて御訪問を  
得、同課長と同席で、部落へ向つた。

コタン(部落)では、部長、川村コナサ、アイヌ翁も、同文人も、旧知  
の私がこんな珍客を観光局長と案内して来てくれたというので、大層な  
喜び。ウ夫人がその場で御記念にアイヌ彫刻教養をお買いに成ると、宝物  
館へ御幸内して、その後、同館前の広場で、自身もその集つかに参加して  
アイヌ芸術の教養を見せてくれた。老女の吹き渡るムツクリ(口琴)の  
響きや、慈悲のマイシマネナの呪いのしらべは、七人の乙女達による  
「鶴の舞」の動美に続いて、美しかった。

旭川駅から汽車で上川駅に出た私達は、その日の日没に、バスで層雲  
峡についた。層雲峡に投じて、明ければ十九日、私達は朝バスで峡谷の  
奥深く、大玉の勝を探つた。その辺から戻つたが、私達は近くの席の  
稍年若い御夫婦と、微笑を交わす間柄になつてゐた。聴けば、このお  
二人は、その矢先の温根湯温泉で「初音」と言ふ飲食店を經營してゐる  
お方様で、私達は、不思議な行路から、異様に下車したその地で、  
ウ夫人お好みの冷やしそうめんやビールの御厚意を受け、またお居近く  
に廻つてゐる ursida などを見せて頂いた。御夫婦で私達をお

写し下すた色彩写真は 帰来後頂戴して好い記念だと思つてゐる。

私達はバスで北見に着くと、夕方近かつたが、この地で~~海~~に有らぬ  
S-ro Seiti Itô をお訪ねしようか、と話し合つた。で、それには  
何人としても 時間が足りなかつた。舞念ながら心に同志へ宛かて汽車  
で美幌に出、駅近い旅館に投じた。

翌20日は 空に快い秋晴れだつた。私達は川湯行バスに乗りと 美  
幌峠の杜絶へ飛んだ。紅葉にはちよつと早かつたね、と云うのが果合  
者の嘆声だつたが、頂上に着いた時 私などは 却つてこういう季節の  
懐かしい色付きの方が 羨らしく慕わしいものと思ふのでつた。こ  
からは 和琴半島と中島を持つ 屈斜路湖を一望。峠斜面に 川湯、弟子  
屈アイヌが彫像館を出していたところから ウ夫人は微笑んで インナ  
クル(幸福)の神様などをお求めになつた。 バスが和琴に着くと  
私達は 博物館を廻つた。ここでウ夫人の最も喜ばれたのは La Papilio  
の数多い標本だつたようだ。

次ぎに観光地黄山では 夫人の湯煮玉子を召し上つてゐる間に 私に  
一つの 旅程に關する思付が湧いた。それは 同夜予定の川湯泊りを變之  
と この碧天下 一気に摩周湖から阿基湖へ バスを飛ばそうという案  
だつた。夫人にお疲れが過ぎては、と気遣いもしたが 一応お話してや  
ると その位の距離なら私に於て大丈夫、行きましよう、との神返事。  
そこで私達は川湯からは、摩周湖展望台回り阿基湖行バスに乗つた。

何人という幸い。この日の摩周湖は、摩周岳から湖心に近い沖岩ま  
で実に山嵐の景張りとでも言える ような季節の澄色の内に有つた。夫人は  
お足に自信がなかつたやうで 二つある展望台の何れへもお登りにはな  
らなかつたが 畧一望の利く高みまでお上りになつて、恍惚と成られた。

二日から阿基湖時までのバスは、長時間かかるのと かなり揺れるの  
で決して楽なものではなかつた。だが夫人は實に泰然たるもので些かの  
お疲れも覚えられぬようだつた。漆黒の湖面の印象!

阿基湖畔に その夜は霧雨を聴きながら眠つたが 明け方は何人と、



## 突に快い、神の蒼みの空間 //

私は夫人と朝食後 宿から15分距離のコタンを訪れて戻つたが 夫人はそれとみると さあ夏れから汽艇で湖上をめぐりましょう。突におさめやか。もちろん 私も同意した。

秋は湖の好い時だ。何人にとつても La lago が、厚みの水として胸にくるのは、この季節に限るのではないだろうか。湖上に出て、私の胸は、突に静かだった。夫人も、突におやさしく呼吸していらした。

雄阿寒湖畔からバスで足寄駅へ来、そこから汽車で帯広駅に下りた私達は 一程を取近い名ばかりのホテルで過すと翌早朝は汽車で 広尾へ向かつた。

私達は襟裳岬を目標して行つたのだが、広尾襟裳向のバスからの展望は正直に言つて、夫人をも、私をも、充分喜ばせなかつた。何人と言つても、私達の頭には、神祕で新鮮な阿寒が、大きく覆いかぶさつていたから。

岬の尖端では、その真下から岬へ断続して延びている岩礁の美しさが僅かに私達の瞳を引いた。だが、それよりも此処で嬉しかつたの感懐岬からの途上知り合つて 私達の存、荷運びまでお手伝い下さつた東京の若御夫婦、荒井氏等にお目にかかた事だつた。私も御好意に報いようとして 御観光に向くお訪ね先のニニへ 紹介名刺 (37頁へ続く)

## EKirinte al Bembaşa について

若い ESP-15TOJ が好んで歌うスラヴ的な老歌を盗んだこの歌ほどして日本に移入されたか -----。名古屋の S-10 三石清は次のように書いて来た。(昔小枝 屋田淳)

----Pere de mia amiko, s-ro Isobe Syosaku la kanto eiris en nian landon per letero de tre juna samideanoj en Jugoslavio. La kanto estas kantata en la filmo "La lasta ponto" de la aktorino Maria Ser. Tiam la popolo kaj volontuloj (= soldatoj) en la liberiga armeo de la lando, kontraŭ la invado de faŝista ~~armeo~~ armeo de Hitler, tre kurage batalis kontraŭ la faŝista potenco. Mia amiko (Isobe Syosaku) spektis la filmon kaj kun emocio pro la humanisma agado de la heroino----kuracistino milita en Germana armeo---- rilate al malsana popolo en malamika lando, li en kinejo, estis kortuŝita de merito kaj boneco de la melodio de la kanto. Li kun sufiĝe bona memoro pri ĝi hastis hejmen kaj tuj enskribis la melodion sur papero por muzikato. Li sendis la melodion al tre ~~jun~~ juna korespondantino en Jugoslavio kun demandoj "Kia estas la kanto? Bonvole sendu al mi esp-~~an~~ tradukon---".

Lau klarigo de la amiko, la traduko de la kanto estas iom komencantema, sed ĝi sufiĝe bone estas tradukita. Li, kvazaŭ konfidente, al neniu rakontis la devenon. Nur al mi li rakontis. Mi, antaŭkelkaj jaroj, oksze de la monto-grimpado sur la japanaj alpoj Tsubakurodake, kun s-roMijake-san kaj aliaj samideanoj, rakontis la devenon dum ekzercado de la kanto de la mont-kabeno "Ezan-soo" al gejunuloj-samideanoj. Ili ege interesiĝis pro la deveno.



### LA URSOJ DE HOKKAJDO

Legendo elpensita por infanoj  
esperantistaj




---

Angvs Sloan (el Anglujo)

Ĉu vi konas la historion pri la ursoj nigraj lignaj kiuja oni vidas en la butikoj de Hokkajdo? Ne? Do, mi rakontos ĝia al vi.

roja, antaŭ longe, estis vilaĝeto apud marbordo de Hokkajdo. La loĝantoj fiŝ-kaptis en la akvo de la marokaj la rivero apude. Ili akru kreskiĝis kelkajn rikoltoĵojn kaj kolektis berojn de la kamparo. En somero ili sun-sekiĝis la fiŝojn kaj fruktojn por mangi en vintro. Okaze ili ĝasis la bestetojn. Sed en la arbaroj estis ursoj, ursoj lertaj -- ne facile kaptablaj --. Tamen, la loĝantoj ofte konstruis kaptilojn krudajn kaj okaze kaptis kaj mortigis la bestojn.

Sed en la vilaĝeto estis eta karbo kiu ĝatis la ursojn, kaj li ne havis timon de ili. En la fruaj matenoj aŭ en la vesperoj li iafoje silente foriris el la domo kaj kuris en la arbaron. Se li trovas ursojn en la kaptiloj li donis etan manĝaĵon al la besto kaj liberigis ĝin.

Unu tago, pesto granda venis al Hokkajdo, kaj multaj de la loĝantoj mortis. En la vilaĝeto apud la marbordo travivis nur la eta karbo kiu ĝatis la ursojn. Li restis malsona kaj malforta dum la monatoj de la somero... Li ne miris kiom kelkaj ursoj alportis fiŝojn al li por mangi. Ĝajnis esti afero natura.

En la malfrua aŭtuno la ursoj gvidis lin al kaverno seka proksima de varma akvofonto. Ili ekaŭ helpis porti kvanto da nutroĵo en la kaveron. Poste, en la monatoj de la vintro, la ursoj dormis. La eta knabo nestumis en la feloj de la bestoj dum la noktoj malvermaj.

En printempo, kiam la knabo kaj la ursoj jam iris el la kaverno, maljuna profetisto vagata al venis en la vilaĝeton. Li miris kiam li aŭskultis la rakonton de la knabo.

"Sed," li diris, "oni ne povus logi ĉiam ĝe la ursoj. Vi devas iri al domo de amikoj aŭ parencoj."

Nun, la knabo rememoras ke li havis oklon en tiutempa vilaĝo de Sapporo. "Do," diris la profetisto, "ni iru al Sapporo!"

Ili ekiris je tagiĝo de la tago sekvinta. En la krutvaleta apuda la vilaĝeto ili vidis, sur la alia deklivo, plurajn ursojn. La knabo mansignis al lia amikoj ursaj.

"Sajonara, "li krilis, "eĥisŭ...mi umas vin!" Kaj lia -j krioj eĥis ĝirkaŭ la kratvaleton; "Mi umas vin.... umas vin.....vin," Sajnis ke la ursoj respondis en iliaj profundaj eĥantaj voĉoj; "Ni umas vin ... umas vin ...vin."

"Umi" signifas en Ĝi tiu kunteksto "ami", sed amo altruisma, neprofitema, ankau la unueco de tutaj vivantaj kreitoj. Nur la linevo internacio Esperanto havas la verbon "umi"! ).

Poste, kiam la knabo loĝis en Sapporo li ofte revis pri lia amikoj la ursoj. Baldaŭ li lernis la arton de lignoskulpto, kaj li naturele skulptis...ursojn.

De tiam ekzistis en Hokkajdo la skulptistoj de ursoj.

Kiam vi vidas la ursetojn lignajn (kun fiŝoj en iliaj buŝoj), vi rivekos la historion de la nekongata knabo kiu loĝis ĉe la ursoj. Eble vi aŭdus--Trans la tempo-- la eĥon "Mi umas vin...umas vin...vin."

(fino)

---

KION VIDIS LA ALIANDANO EN JAPANUJO

( el la libro de Kidowski )

---

K. Kimura ( Sapporo )

- Furoŝiki -

La grandeco de la furoŝiki varias inter tia de naztuko kaj tia de tablotuko. Per ĝi la edzinoj portas ŝetitaĵojn, la profesoro librojn, la studento manĝaĵojn, la vojaŝanto donacojn, la moderna fraŭlino sian european manpoŝeton. La furoŝiki servas kiel akutujo, foirkorbo kaj kiel kofreto. Laŭ la speco de la furoŝiki oni novas juĝi la aĝon, sekson, guston, riĉecon aŭ malriĉecon de la posedanto. Laŭ tiu, kiun mi donace ricevis de Meiko Ochaŝi, mi estas fraŭlo, tridek-jara, artista kaj sufiĉe riĉa.

- Oĉa - (teo)

La radio-stacio JOAK staras sur monteto en la bela Siba Parko. Mi alvenis per eleganta automobilo, sendita de la radiostacio. Ĉe la enirejo kelkaj ĉarmaj fraŭlinoj en belegaj kimonoj nin salutis, kliniĝante profunde, kaj tion ripetis, ĝis kiam mi mem ĉesis riverenci. Kiel katime, ni unue triakis teon. Sen oĉa neniu konversacio aŭ radioparolado povus esti komencata aŭ finata en Japanlando. En ĉiu hejmo, en ĉiu oficejo mi devis trinki teon ĉe la elveno kaj antaŭ la foriro. Ĉar mi faris multajn vizitojn, mi triakis ĉiutage proksimume 25 tasojn da teo sen sukero! Nun mi komprenas, kial

pli ol la duono de la Japanaj terestraj konsumataj  
en Japanujo mem.

---

GEEDZIGO EN JAPANUJO  
(Klarigo por fremduloj)

---

(Tomkomse) A. Hosida

Pest Meizi Renovigo (Burgs revolucio en Jap  
anujo, finita en 1868) japana feŭdismo detruigis,  
sed en multaj kutimoj postvivis ĝiaj formalecaj  
restaĵoj, ĝis antaŭ 1945, la fino de la lasta milito  
, la edzigo ne estis afero pure persona, sed afero  
inter la du familioj, en kiu oni devas konsideri  
la rilatojn de sociaj rangoj kaj ekonomiaj kapabloj  
de la familioj. Do tiam ordinare ĝion aranĝis  
la du famili-ĉefoj kaj "naksudo" (persano--svatisto)  
, kaj konsilis (ofte ordonis) al siaj gejunuloj  
geedziĝi: Pest la milito ĝiu povas libere geedz  
-iĝi kiam ili au si estas pli ol dukajars, laŭ  
Japanan Konstitucio.

Ĝenerale japanaj gejunuloj guss la rajton  
donitan de la konstitucio---libere enamiĝi kaj gee  
-edziĝi. (kompreneble troviĝas esceptoj)

Sed la supraĵaj formalecaj de la feŭdismaj  
kutimoj restas ankoraŭ. Klarigo jene.

Mini ; Intervidiĝo , kie la geedziĝantoj renkontas, salutas, kaj parolas kaj observas ĉu si (nŭ li) plaĉas al si.

Nakauda; Svatisto aŭ neranto inter la du familioj  
Juinoo; Donacoj inter ambaŭ familianoj, ĉefe de la edzo, nor konstata la promeson de la geedziĝo.

Estis kelkaj stiloj de geedziĝa ceremonio.  
Sintoisma ceremonio; Ĉe ŝintoisma sanktejo.  
Budhisma ceremonio ; Ĉe budhisma Templo  
Kristanisma ceremonio; Ĉe kristanisma pregejo, eble same de europanoj.

Post la ceremonio ordinaare oni havas festenon, kie la gekonatoj gratulas la novan paron. Tion oni nomas : "hiroo-en" (publikiga festeno).

Lastatempe gejunuloj emas forĵeti formalajn kaj simpligi la procedon de geedziĝo. Jam multaj ne havas "misi", ankaŭ "juinoo"-on.

Kelkaj geedziĝas eĉ sen "nakaudo". Tiel nun troviĝas diversaj manieroj en geedziĝo.

Ofte en civitena domo aŭ aliaj publikaj kunvenoj oni havas ceremonion kaj festenon samtempe. Tiam la ceremonio estas tre simpla . Tiam prezidanto prezentas la novan paron , kiuj kune legas juron nor geedziĝo. Tion tuj sekvas hirooen(festeno).



En Hiroo-en oni manĝas ,trinkas sakeon,  
salutas grātule,kantas ĝaje k.t.d..

Post tio la nova paro forveturas por Siakon-  
rjokoo(ĝeedziĝa vojaĝo) ordinare. Tiel ,ordinare  
en hotelo de varmfonteĵo ili havas ŝancon esti  
nur si. Tiel ili komencas sian vivon kiel ĝaedzoj

---

### TAJDO

---

T.Takahasi (Otaru)

Mia 3-a infaneto naskiĝis la 22-an de Okt.,  
en la lasta jaro , kaj en tiu momento ĝi estis  
al-vokite de mia edzino (kompreneble ĝia patrino)  
"Tajdo!" Ĉar ĝi estas vira .

Antaŭ 8 jaroj ,kiam mia 2-a infaneto estis  
naskiĝonta , mi preparis por ĝi la nomon "Tajdo"  
esperante ke ĝi estu mia filo (ĉar mia 1-a infan-  
eto estis filino kaj mi donis al ŝi esperantan  
nomon "Lumi"); sed la 2-a ankaŭ estis ina same  
kiel la 1-a ,do mi donis al ŝi esperantan nomon  
"Ami"

La 2 filinoj kreskiĝas bone ,--iam <sup>amike</sup>kune  
ludas,iam kvarelas kontraŭ la alia,--iam ploras  
,iam ridas---tiel mi estis feliĉa kaj kontenta  
kun miaj filinoj,ĉarmaj al mi ,kaj ĝajaj ĉirkau  
mi----mi jam preskau perdis deziron havi filon  
kaj tiel mi estis preskau forgesanta la nomon  
"Tajdo"---Sciigo sekteta de mia edzino surprizig-  
is min.

Kiam mi akompenis mian edzinon al la  
akuŝejon mi ne povis esti trankvila prezente

"

facilan skuŝon, kiel multaj patriĝantaj viroj. "Filo au filino" ne estis grava tiam por mi, sed post kelkaj ~~xxx~~ horoj, kiam la flejistino informis al mi facilan skuŝon kaj naskiĝon de FILO, mi ne povis kaŝi ĝojegon preskaŭ eksplodantan en mia koro, kaj tiam remorigis al mi la nomo "Tajdo" !.

Kiam mia edzino revenis de skuŝejo, ŝi ankaŭ diris al mi, "Feliĉa Tajdo naskiĝis." Tiam "Tajdo" estis jam debilita nomo por la nova infaneto, kaj post 5 tagoj mi registris la nomon en la urba oficejo.

Cu vi demandas al mi kial mi donis al li la nomon "Tajdo" ? La kialo estas tre simpla, ĉar mia laboro koncernas maron (—tajdon), kaj li devas havi esperantan nomon. Pro tio "Tajdo" estas la plej taŭga por mia filo el la esperanta vortaro.

Maristoj diras "Homo naskiĝas en la horo de alflua tajdo, kaj mortas en deflusa tajdo." Vere, la vigla infaneto naskiĝis kun alflua tajdo.

Iu diris al mi ke ĝia nomo estastro grandizema por tiel malgranda infaneto, kaj elia kritiko ke ĝi imagigas nomon de la bonzo; mi konsentas al tiuj, leu la signifo de ĝina litero por signi la nomon "太道" (Tajdo). Sed kelkaj komplimente laŭdis la nomon pro ĝia grandiozemo. Mia bopatro konsenteme diris ke ĝi imagigas sekurecon kontraŭ trafikaj akcidentoj.

Japanoj povas havi nomon tre libere kompare kun eŭropanoj kiaj devas havi kristanan nomon kaj uzo de ĝinaj literoj riĝigis, diversigis kaj pli-liberigis japanajn nomojn.

Por legi ĝinajn literojn, estas 2 rimodoj--- "KUN" (propra leg-rimodo laŭ signifo de japana lingvo) kaj "ON" (legrimodo laŭ prononco de ĝina litero). Mi montris kelkajn ekzemplojn por KUN-legrimodo kiel ĝi sube:--

Yasuko (nomo de mia edzino)  
signifas "virino plika kaj pli feliĉa,  
au "virino tute sekura"

Hayato (nomo de eks-ĉef-ministro)  
Signifas "bravulo"-n

Akira

Signifas "klara" aŭ "luma"

Mia amiko, s-ro Tutida, havas nomon "Tora-juki".  
Laŭ ĉina litero, "Tora (虎)" signifas "tigro (bravulo  
kiel tigro)"-n, kaj "juki (吉)" signifas "feliĉa".  
Do, mi iam moke ŝercis al li ke li estas tre  
feliĉa kiam li estas ebria. (Japane diras "Tora!  
por montri ebriaŭ viron...") Kompreneble ~~ke~~ lia  
nomo signifas "viro brava kiel tigro kaj tre feliĉa".

Mi montros kelkajn ekzemplojn por ON-leprimado  
de nomoj kiel ĉi sube:-

Taouji (mia nomo)

Signifas "atingebla kaj paca"

Eisaku (nomo de nuna ĉef-ministro)

Signifas "prospera rikolto"

"Tajdo" ankau devenas de ON-leprimado en japana  
lingvo. "Taj" (大) signifas "tregranda" aŭ "la unua",  
kaj "Do" (道) signifas "vojo"-n. Mi pensas ke la  
signifo estas taŭga por li ĉar li estas ~~ke~~ mia  
"unua" filo kaj li naskiĝis en Hokkajdo".

nomo de

En japana lingvo "mia i-a filino" Lumi" ( lumi )  
signifas "bela kiel lazur-gemao". Kaj nomo de 2-a  
filino "Ami" ( 愛美 ) signifas "ĝarma bela". Mi  
esperas ke ili estu belaj virinoj.

Iu demandis al mi kial mi donas eson-an nomon  
al miaj gefiloj, sed la kialo ankau estas tre simpla  
, ĉar mi kaj mia edzino geedziĝis kiel geesperantistoj  
, do miaj gefiloj naskiĝis pere de Esperanto kaj  
ili vole nevole estas destinataj koncerne al  
Esperanto. Ili havas rajton havi esperantan nomon.

Mi deziras partoprenigi 2 filinojn al la infana  
kongreso en 50-a Universala Kongreso. Por tio  
miaj filinoj lernas nun esperanton. Mi deziras  
ke ĉiuj miaj infanoj farigos bonaj geesperantistoj

Nun Tajdo, kiu multe suĉas lakton kaj dormas

bone, nun tre sane kreskiĝas kun ronda infanema  
vizaĝo. Mi ne povas antaŭdiri ke li estos bona  
esperantisto aŭ ne, sed mi, rigardante laŭn vizaĝon  
, pensas ke li iam pripensos pri sia nomo,  
koncerne Esperanton.

---

SCIENCA PENSADO Povas konduki al  
OBJEKTIVA VIVKONCEPTO, se ĝi  
TRAKTAS NOVAJN IDEOJN. Peta sennagan iluŝtan  
feld-prospekton ĉe Martinus Instituto, Mariendal-  
svej 94-96, Kopenhago F., Danlando.

---

## PRI INSTRUADO DE ESPERANTO AJ INFANOJ

Iĝa Lisicnik, Kutaĝisi (USSR)

Ĉiu instruisto de fremdaj lingvoj sendube konstatis, ke infanoj pli rapide kaj facile lernas fremdan lingvon ol plenkuloj. Tio estas natura, ĉar la kambio de infanoj al limitado kaj ilia pli freŝa memoro helpas al ili majstri la fonetikon, memori la vortaron.

Alia afero estas kun lernado de Esperanto. Multaj esperantistoj montras, ke por infanoj, se instrui al ili la lingvon per gramatika metodo, la posedado de la lingvo estas pli malfacila ol al plenkuloj. Tio estas afero tute komprenebla. Esperanto estas lingvo de logiko, de senĉesa konstruado de vortoj pere de afiksoj---proceso sendube malfacila por infanoj.

Jen kial la metodo de instruado de Esperanto al infanoj ne povas ne konsideri tiujn spaciajn -ojojn.

## LA ĈEFAJ PRINCIPOJ DE TIU METODIKO ESTAS NIAOPINIE JENAJ;

1. Reksa metodo, konversacio kiel bazo de pedagoga proceso.
2. Infanoj lernas ne vortojn kaj ilian konstruadon pora de afiksoj, sed pretajn frazojn. Nur post kiam la lernatoj, plene ekposedos tiujn pretajn

frazojn kaj perolturojn, estas ebla ilia gramatika analizo kaj klarigo de afiksoj.

3. Paralele kun la konversacio, infanoj lernas rakonti malgrandajn interesajn anekdotojn, historiojn kaj versetojn, kantojn.

Jen estas mia metodiko de instruado al infanoj, kiu donas sufiĉe bonajn rezultojn. Mi ne uzas lernolibron, sed verkis dialogojn je ĉiutagaj tempoj, ekzemple:

#### 1. PATRINO

Kiu vi estas? Kia estas via nomo? Kiomdaĵaroj vi havas? En kiu klaso vi lernas? Ĉu vi estas bona lernanto? Kie vi loĝas? Kie estas via lernejo?

Por ke la lernantoj povu enskribi la dialogojn kaj ripeteti ilin, post la konversacio ili estas instruataj legi kaj skribi.

#### 2. MIA FAMILIO

Ĉu via familio estas granda aŭ malgranda? El kiu konsistas via familio?---Patro, patrino (gepatroj), frato, fratino (gefratoj).---Ĉu vi havas geavojn?---Avon kaj Avinon---Ĉu vi havas geonklojn? Onklon kaj onklinon.---Ĉu vi havas gekuzojn?---Kie estas via patro?---Laboristo, oficisto, muzikisto.---Kio estas via patrino?---Laboristino, instruistino, dommastrino.---Ĉu viaj gefratoj estas lernantoj? Ĉu ili estas laboristoj, oficistoj?

Post kiam tiu dialogo estas jam bone ellernita kaj la infanoj memoras ĉiujn vortojn, mi demandas ilin:

Ĉu vi rimarkis ion interesan en tiaj vortoj, kiaj patro-patrino, frato-fratino, avo-avino.---Kion? La infanoj mem konkludas, ke finiĝas je -o kaj -oj en pluralo; ke virina sekso finiĝas je -in-. La samon ili mem konkludas pri la prefikso ge-. Sekvas ekzemploj kaj ekzercoj.

(daurigota)

(24頁から)を書いて差し上げていたのであるが、氏等が私達同様のコースを辿って、ここに采ておられるとは思わなかったのだ。「今度は何処でお目にかかれましょう。」—そんな事を言つて笑い合つたが、私の胸には何か寂しいものが残つた。

この御夫婦を様似へ見送つた後、私達は尚そこで、昔小牧の同志のどなた様かがいらつしやらないか、と一バスをお待ちした。でも其れは、はかない希いどつた。私達とその後、様似行のバスに乗つて、難破船員の古川墓のお芒原を、揺られて揺られて日高路の人と成つた。

様似から汽車で富川に着いたのは、その日の夕暮どつた。駅のお方から後推 S-ro 星田が私へお電話を下さるとは伺つたけれど、ウ夫人が Tre malsata と仰有るので、そこに留まる訳にも行かない。明日電話連絡しまると、S-ro へお伝え願つて置いて、私達はバスで、平取町へ向かつた。

そのアイヌ老媪、吉田花子氏は私の旧知で、土地のアイヌ族の間に信望の厚いお方であるが、その夜は私達の為には、快くその新築の和室=間を供された。

夫人は私を介して、吉田媪の、故 S-ro Dr-ro John Batchelor に肉する追憶を聴こうとされたり、男女お二人のお孫さんへ、お優しいお言葉をかけられた。

翌朝は先ず、S-ro 星田へ電話連絡せねばならぬと思つたが、近隣から何度かけても通じないので、それは思い切つて吉田媪から報された、私の知人のアイヌのお葬式へ、それから出かけた。正午ごろ戻つて来ると是れは、ハア、盛んな歌ごえ。吉田媪の孫嬢、ちやん、ウ夫人が、邦語の童謡を kunkanti してるのだつた。

やがて吉田媪も、私の行つたお葬式からお戻りになつて、そこで皆んな揃つての、お別れの tagmanq'o。私達は、昔小牧へ出るのだ。

近くのバス停留所まで、堀はお孫さん達と、集合せよ私見知りのマイ  
スの小母さんと、見送りに出て下さる。

ウースター夫人の 彼等への、お名残り惜しうな笑み!

'Sarampa (Adiau), Piratori', 哀しい声が、私の咽喉  
からと、発された気がする。(完)

### D. ウースター夫人 再び 北海道へ

ウースター夫人が 再び(四回目)北海道においてになります。各  
地行事に ご参加下さい。

4月11日(日) 15時15分「おおとり」札幌着

16時-20時 南1区ウエストビル2階(電

車通り南向)で行われる礼エス会総

会に出席。なお「礼エス会総会」

と同時にウースター夫人歓迎会)

世界理解の日(Mondvida Tago)も行

20時以降 通産円山荘 宿泊

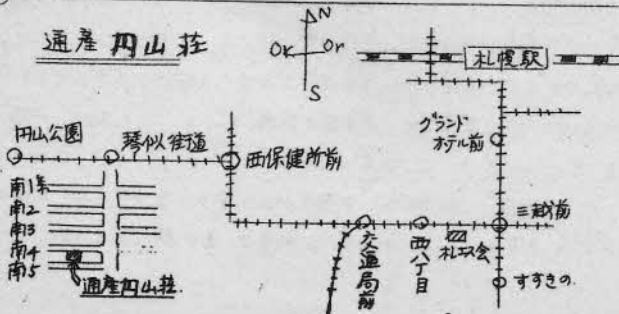
(終始 <sup>エスミ</sup> 厚柵 Omoto 編集長随行)

4月12日(月) 札幌 大孝 anoj と。札幌宿泊

4月13日(火) 小樽 エス会、大孝 anoj と kunsidi

4月14日(水) 19時「おおせら」で札幌発、高道

### 通産円山荘



# La 3-a Disciplinado de Esperantistoj en Hokkaido en 1965

とき 1965年4月24日(土) 17時 ~ 21時30分 (受付開始  
16時30分)  
1965年4月25日(日) 9時 ~ 15時

ところ サッポロ市南5西25通彦内山荘 (Tel 22-3400)  
(すべて和室 落ち着いた雰囲気のきれいなところ)

**経路** サッポロ駅前からすすきの方面行電車(2,3,7系統)に乗り、「三越前」で「円山公園」行き(1系統)にのりかえ「琴似街道」で下車。南へ徒歩で約10分。

費用 下記のうち各自の所要経費のみ。申込書に明記して下さい。

- イ. 24日宿泊(25日の朝食付) 500円
- ロ. 24日会費(18時半頃食事) 250円
- ハ. 25日昼食(共もの) 120円
- ニ. 記念写真(25日12時撮影) 60円

申込書送付先。サッポロ市南1西6三谷ビル4階  
吉原法律事務所内 札幌エス会

申込期限 4月17日午前中までに必着。

合宿では LEA 発行の Diskoj をテープとつけたもの(49-a U.K. その Lapenna の話もある)や Pampilio 氏の講話ロクオン、Liquaphone の Esp-kurse をテープとつけたものなどをかけて耳ならしをはかれます。しかし、一人10分位の prelego をやって自ら人前で話す練習をされるよう期待します。

## HELI 会計報告 1965 ~ 2月 ~ 3月

|        |        |
|--------|--------|
| 前回繰越金  | 20,200 |
| 山賀 勇より | 1,000  |
| 連方 友より | 400    |



|                          |        |
|--------------------------|--------|
| 植木口防                     | 500    |
| 後援会 (50 UK 2x)           | 10,000 |
| 1-a disciplinado 支出      | 1,000  |
| 2-a disciplinado (小樽) 支出 | 2,000  |
| pompilio (札幌) 支出         | 5,000  |
| Intormilo (65-2a)        | 800    |
| " 送料                     | 320    |

3月31日現在残額

231,080

50 UK 寄附者 (1965 Feb~Mar)

|          |           |      |
|----------|-----------|------|
| 札幌<br>小牧 | 川口 義彦     | 400  |
|          | 大泉 源郎 (有) | 1000 |
|          | 門脇 松次郎    | 1000 |
|          | かんし 亨喜林   | 500  |
|          | 相沢 一雄     | 1000 |
|          | 吉住 秀雄     | 500  |
|          | 下向 善次郎    | 200  |
|          | 本田 衡規     | 200  |
|          | 中里 和夫     | 5000 |
|          | 梅木 孝昭     | 500  |
|          | 星田 淳子     | 3000 |
| 由仁       | 新倉 藤男     | 3000 |

尚これで後援会資金は残 9,870円となりました。

後記

定期飛行どころか 予定日からまた更に遅れ までとすみません。  
 50 UKも近く、あれこれ忙しい日々ですが とにかく近來にな  
 く 40-paga ができてよろこんでいます。50 UK 参加予定者か  
 ら 同じ船で、とか 同じ汽車でとか 希望かきています。船はさ  
 めまで、汽車は 皆一揃に団体列車で 楽しく、安上りに旅行す  
 る 帯にしろ、どうでしょう！

APR. 1965

Kiam la sekretario de Unuigintaj Nacioj turnis sin al neregistaraj organizaĵoj en konsultaj rilatoj kun Unuigintaj Nacioj kaj kun ~~la~~ Unesko, [inter aliaj ankau ~~la~~ U.E.A.] por ~~la~~ partopreni <sup>en</sup> ~~en~~ tiu ĉi agado, kompreneble ~~la~~ ~~U.E.A.~~ Universala Esperanto Asocio akceptis la kunlaboron: ĉar ni esperantistoj opinias, kaj ~~ni~~ ~~esperas~~ <sup>ke mi</sup> ~~asprimas~~ la opinion de vi ĉiuj ĉi tie ~~ke~~ kiam mi tion diras, ni esperantistoj opinias, ke necesas doni subtenon al ĉiuj honestaj lojalej klopodoj de Unuigintaj Nacioj, kiuj celas entaŭnigi internacian komprenigon kaj sekve ankau mondan pacon, ĉar ni esperantistoj ja estas por la monda paco, kaj ni estas ne nur hodiau, sed ~~ankau~~ <sup>estas</sup> hierau kiam ~~estis~~ fortaj internaciaj tensioj, kaj ni estis ne nur ~~kie~~ hierau, sed ankau antaŭhierau, eĉ de la momento, kiam ~~tiu~~ genia junulo el Bielostok ekhavis la ideon doni al la homaro komunan lingvon; ĉar tra ĉiuj niaj reeligoj ĝis la hodiau tago la ~~idea~~ ~~de~~ ~~komuna~~ ~~supernacia~~ ~~neutrale~~ lingvo estis ligita ~~al~~ al la penso pri interkomprenigo ne nur ~~buŝe~~ sed ankau kore, al la ideo de toleremo kaj komprenema rilato al alies pensoj, ideoj, ~~ide~~ ~~ide~~ ~~ide~~ ideologioj kaj religiaj sentoj, al interkomprenigo inter la rasoj kaj nacioj, sekve al la monda ~~la~~ paco, (~~la~~ Aplatidado)

Tio estas la vortoj de Doktoro Zamenhof. Tiaj profetaj pensoj de Zamenhof regu la laboron de tiu ĉi kongreso. Ili estu antaŭniaj okuloj kiam ni ekagos kaj laboros en la Jaro de Internacia Kunlaborado. Ili estu la bazo de nia agado en la estonteco. Se ni observos tiun saĝon kaj prudenten konsilon, ni certe venkos. Se ni malobservos ĝin, ni riskas ne nur detruĝi ĉion, kion ni loĝas de ~~1887/1888~~ sindonaj ~~personoj~~ ~~1887~~ kreis ~~da~~ ~~da~~ pli ol ~~75 jaroj~~ ekzistado de Esperanto, ~~personoj~~ dum ~~70-jara~~

sed ankoraŭ kompromiti pro ĉiam la ideon de internacia lingvo, ĉar se ni kompromitas hodiaŭ la ideon de la internacia lingvo neniu plu troviĝos, kiu restarigis ~~ĝian~~ ~~ĝian~~ reputacion. (Aplaudado)

Ni estas sufiĉe fortaj, ĝemikoj, por iri antaŭen. Ni nur bezonas saĝon kaj prudenton por esti unuecaj. Kun tiu saĝo kaj prudento ni alfrontu la laborojn de tiu ĉi kongreso, ni alfrontu la Jaron de Internacia Kunlaborado, por ke la Jaro de Internacia Kunlaborado farigu samtempe ankaŭ la Jaro de la Internacia Lingvo Esperanto, en la intereso de internacia kunlaborado, en la intereso de amikaj rilatoj ~~de~~ inter la popoloj, rasoj kaj nacioj, en la intereso de amika kunlaborado ~~de~~ ĉiuj unuopaj homoj, en la intereso de ni ĉiuj. ~~inter~~

(Aplaudado)

— FINO —

(168—220<sup>fino</sup>)

Tiamaniere, el kiu sja aspekto vi ~~flata~~ rigardas, vi vidas objektivan progreson malgraŭ ~~multaj~~ malfacilaĵoj eksteraj kaj malgraŭ multaj obstakloj internaj, kiujn ni frontis kaj plue frontas en nia laboro. ~~Ĝi~~ <sup>la grandaj</sup> opinias, ke ni estas kapablaj plenumi la grandan taskon kiu staras antaŭ ni en la jaro de internacia kunlaborado sub ~~ĝia~~ unu kondiĉo, ke ni estu unuecaj, unuecaj ne nur organize, sed ankaŭ en niaj koroj kaj spirite. Kaj tiurilate ni opinias ke ni povas fari nenion pli bonan en tiu ĉi momento ol memori vin pri la vortoj, kiuj <sup>el</sup> eldiris Doktoro Zamenhof kiam --laste pro kelkaj eventoj en la tiama esperanto-movado, li ~~decidiĝis~~ decidiĝis retiriĝi <sup>(el)</sup> ĉiu oficiala <sup>(pri)</sup> funkcio el la esperanto-movado kaj en sia fama parolado de la

jaro 1912, anoncis sian ekziĝon. Li diris:

"Antaŭ ol mi forvetas de mi ĉiam oficialan rolon en nia sfero, mi ankoraŭ la lastan fojon admonas vin: laboru ĉiam en plena unueco, en ordo kaj konkordo. Per ĝia unueco ni pli aŭ malpli frue certe venkos, eĉ se la tuta mondo batalus kontraŭ ni; per interna malpaco ni ruinigus nian sferon pli rapide, ol tion povus fari ĉiuj niaj malamikoj kune. Se en nia sfero speros io, kio ŝajnas al ni malbona, ni povas trankvile ĝin forigi per ĝia komune konsentita decido; sed ni neniam semu en nia tendero reciprokan malmemon kaj malpacon, kiu nur ĝojigas kaj triumfigas ĝia niajn malamikojn. En la unuaj jaroj de nia laborado sur nia standardo estis skribitoj la vortoj lespero, obstino (kaj) pacienco: tio tute sufiĉis, ĉar ke ni, samideanoj, devas reciproke nin estimi kaj helpi, tio per ĉiu estis komprenebla per si mem. En la lastaj jaroj ni bedaŭrinde ofte forgesis tiun devon; tiel nun, transirante en la duan gravan periodon de nia historio, en la duan kvaronjarcenton, ni skribu sur nia standardo novan vorton, kaj ĉi tian vorton ni ĉiam respektu kiel ĝ sanktan ordonon; tiu vorto estas "konkordo".

(<sup>75</sup>~~70~~-94)

Necesos kolekti multajn subskribojn je tiu propono. Necesos mobilizi ĉiujn niajn organizojn kaj ĉiujn unuopulojn, ĉar kvankam ĉi tiu ĉi jaro de internacia kunlaborado faros nian eblon por ĉerpi al la klopodoj de Unuigintaj Nacioj sur tiu kampo, tamen ni ne forgesas, ke ne estas pli intensa kaj pli vasta internacia kunlaborado, sen akcepto de komuna instrumento de kunlaborado, per kiu povas interkomprenigi ne nur la intelektaj elitoj, kiuj havis tempon <sup>por</sup> ~~lerni~~ multajn fremdajn lingvojn kaj ĉi tiuj lerno ne sufiĉas al ili por interkomprenigi ĉiam, sed ke necesas kunlaborado de vastaj popoloj, kiuj havas nek tempon nek energion ~~por~~ en ~~la~~ moderna tempo por lerni masen da lingvoj, sed necesas havi unuoblan ~~lingvon~~ <sup>lingvon</sup> ~~per~~ <sup>per</sup> internacia komprenigo, kaj tio estas nia KOMUNA internacia lingvo Esperanto, internacia laŭ sia konsisto, laŭ siaj celoj, laŭ sia strukturo kaj laŭ ĉio. (Aplaudado)